

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
米田地区

平成29年4月

兵庫県高砂市

※記入にあたっての留意事項(このページは、提出の際には添付する必要はありません。)

事後評価様式の記入にあたって、下記の点に留意してください。

1. モニタリング(一部の結果)・事後評価・フォローアップの3段階を、様式にご記入いただきます。それぞれの内容・記載要領は、以下のとおりです。
また、記入項目の詳細や記入例については「事後評価シート作成の手引き」を参照してください。

段 階	内 容	時 期	記入欄の 色分け
《第一段階》モニタリング	事業期間中に、実施状況、数値目標の達成状況、効果発現の状況を確認する	交付期間中の 任意の時期	
《第二段階》事後評価	評価項目の計測（見込みの値でも可）、効果発現に関わる要因、今後のまちづくり方策等を整理する	最終年度	
《第三段階》フォローアップ	事後評価時に「見込みの値」としたものに対して、事業終了後に、確定した数値で再度整理する	原則、交付終了の翌年度	

2. 計画変更またはフォローアップなどの際、数値及び文章の修正が必要となった場合は、適宜、欄(枠)を拡張するなどして記入してください。その際、当初計画または事後評価の際に記載した内容(元からの記載内容)は削除せず、消し線を用いて対応してください。

例1)数値等の軽微な修正

【修正前】 ○○整備事業 面積 2,300㎡

【修正後】 2,800㎡

例2)文章の修正

【修正前】 ……するものとし、特に、●●館のイベント等に関する情報を発信していくものとする。

【修正後】 特に、●●館のイベント等に関する最新情報をリアルタイムでHP上から提供していくものとする。

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	図書館の図書貸出者数	人/年	27,600人/年	60,000人/年	177,905人/年	確定 見込み	●	○	あり なし	170,314人	H 29年 4月	○	<p>当初の予想を大幅に上回るペースで図書の貸出者数は伸びていき、8月には目標値を越え、最終的には目標値の3倍近くに達した。なお、見込み値(評価値)より若干少ないが、その誤差は5%以内であることから、事後評価を実施した時点での予想と同等の成果を挙げたと考えられる。</p> <p>■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	スペースの増加によって蔵書数が増え、読書スペースや多目的利用のスペースも充実した。その結果、生涯学習や地域活動の機会が増大した。加えて、指定管理者制度の活用によって、開館日・開館時間が増加した。これらのことが、利用者が大幅増加した要因として考えられる。
指標2	子育て支援センターでの絵本読み聞かせ等実施回数	人/回	0回/年	12回/年	12回/年	確定 見込み	●	○	あり なし	12回/年	H 29年 4月	○	<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	持続的に図書館利用の促進を図るべく、若い世代の読書習慣醸成策の一環として絵本の読み聞かせ会を毎月1回定期的に行うことにした。利用者が多いことから、この取り組みは子育て支援策としても機能していると評価できる。
指標3	米田多目的広場の利用者数	人/年	5000人/年	7500人/年	13,762人/年	確定 見込み	●	○	あり なし		H 年 月		<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	広場の縮小にあたり各老人クラブが話し合ったことで、高齢者の利用頻度が変わらなかった。また、老人クラブと他団体との利用時間の分화가徹底されたことで、他団体の休日利用がしやすくなった。これらのことから、利用者数が増えたと考えられる。
指標4						確定 見込み			あり なし		H 年 月		<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	
指標5						確定 見込み			あり なし		H 年 月		<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定 見込み					H 年 月		<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	
その他の数値指標2					確定 見込み					H 年 月		<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	
その他の数値指標3					確定 見込み					H 年 月		<p>□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる</p>	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	施設利用者数を維持するための読書習慣醸成機会の創出	図書の購入 図書館ボランティア講座 セミナーの開催 絵本の読み聞かせ会	本事業によって蔵書数や読書スペース、多目的利用のスペースが増えた。また開館時間が伸びたことで、利用しやすくなった。これらのことが利用者の大幅な拡大に繋がったと考えられる。	平成29年度から3年間で蔵書数を20万冊まで増やしていく。同時に図書館ボランティアの育成や各種セミナーの開催、絵本の読み聞かせ会といったソフト施策を継続的に実施していくことで図書館のPRを行っていく。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	施設間連携による利便性の向上	関係課による協議 サービスポイントの増設(まちなか図書館サービス)	まちなか図書館サービスとして、市内8か所の公民館にサービスポイントを設置し、公民館で図書の検索、貸出、返却を行えるようにした。利用状況は公民館によって異なるが、利用者数の少ない公民館でも月100冊程度の取り扱いがある。図書館は市の東部に位置しているため、市西部の住民は東部の住民より図書館の利用がしづらい状況が懸念されたが、こうした施設間連携により図書館サービスにアクセスしやすい地域が広がったことで、図書館利用者の幅が広がったと分かる。	学校との連携を強化していくと同時に、サービスポイントの増設を図っていく。高齢化の進行に伴い、今後車の運転ができない世帯の増加が予想される中で、こうした取り組みにより施設のアクセシビリティを確保していく。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項